

ユニット外空間および併設施設の実態からみた空間的課題
地域密着型特別養護老人ホームの建築計画特性 その2

正会員 ○原 玲子 *
同 毛利 志保 **
同 加藤 彰一 ***
同 チャン シンキー ****

地域密着型特別養護老人ホーム ユニットケア 平面分析
公共スペース 併設施設

1. はじめに

前報においては、地域密着型特別養護老人ホームにおけるユニット構成およびユニット内空間に着目し、広域型特養との比較を通して、職員配置や共同生活室についての特性を示した。

本報では、ユニット外共用空間（公共スペース）および敷地内の事業所外空間（併設施設）に着目し、段階的空間構成の実態について明らかにする。

ここで、ユニット型特養における空間構成について概略を示す（図1）。ユニット型特養は、4種のスペースにより段階的空間が構成されている。地域との交流を目的とする「パブリックスペース」とユニットを超えた交流を目的とする「セミパブリックスペース」を「公共スペース」と呼び、居室を始めとする「プライベートスペース」とユニット内共用空間である「セミプライベートスペース」により「個人スペース」（ユニット）が構成されている。

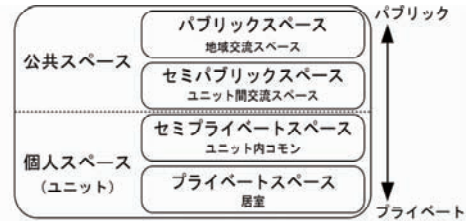


図1 ユニット型特別養護老人ホームの空間構成

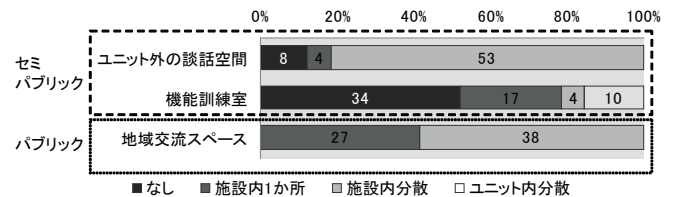


図2 ユニット外共用空間（公共スペース）の設置状況：広域型

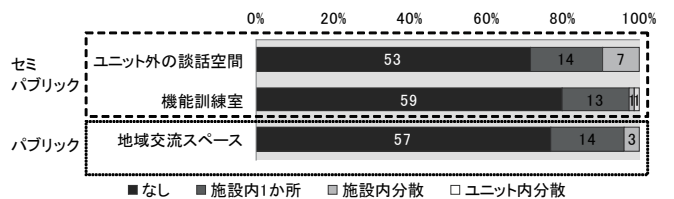


図3 ユニット外共用空間（公共スペース）の設置状況：地域密着型

2. 調査結果

2-1. ユニット外共用空間（公共スペース）の状況

図2、図3に広域型特養・地域密着型におけるユニット外共用空間の設置状況を示す。

広域型特養においては、セミパブリックスペースである「ユニット外の談話空間」は88%、「機能訓練室」は48%の施設で設置されており、パブリックスペースである「地域交流スペース」については全施設で設置されている。

一方、地域密着型においては、セミパブリックスペース、パブリックスペース空間ともに7~8割の施設が未設置であり、広域型特養に比べ公共スペース空間が設置されていない施設が非常に高い割合を占めている。

表1は地域密着型における段階構成別みた施設割合である。「ユニット内空間のみ」（2段階）つまりユニット外に居場所を持たない類型の施設が約半数を占めていた。パブリック、セミパブリックのいずれかのスペースを持つ施設は4割、4つの段階的空間を構成していた施設は約1割にとどまった。

更に、図4に地域密着型特養における定員一人あたりのユニット内面積に対する公共スペース面積比率*1を示す。最も多いのは0.3~0.4未満であり、つまり、ユニット内面積：公共スペース面積比はおおよそ3：1であるといえる。一方、広域型特養ではその平均比率は0.63、つまりユニット内面積：公共スペース面積比はおおよそ3：2であることを考慮すると、地域密着型において公共スペースに充てられる

表1 地域密着型における段階構成別の施設割合

構成型	模式図	施設数
4段階型	パブリック セミパブリック セミプライベート プライベート	9 (12%)
3段階型 (パブリック スペースのみ)	パブリック セミプライベート プライベート	8 (11%)
3段階型 (セミパブリック スペースのみ)	セミパブリック セミプライベート プライベート	22 (30%)
2段階型 (ユニットのみ)	セミプライベート プライベート	35 (47%)

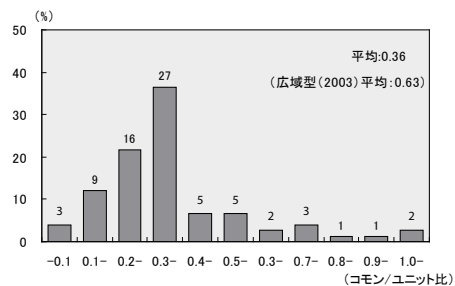


図4 地域密着型一人あたりユニット内に対するユニット外面積比率

The spatial problem based on the actual condition of out of the unit space and the attached facility
-A Study on Planning of a Community-based daily life care for elderly (no.2)-

HARA Reiko, MORI Shiho, Kato Akikazu, CHAN Seng Kee

面積は広域型特養の約半分であることがわかる。

2-2. 敷地内における併設施設の状況

地域密着型での敷地内および隣接敷地における併設施設の設置状況について図5に示す。併設施設は「ショートステイ」が最も多く33施設(44%)、次いで「デイサービス」23施設(31%)「小規模多機能」16施設(22%)「グループホーム」12施設(16%)と続いた。

広域型特養の併設施設が在宅介護サービス中心であるのに対し、地域密着型においては居住・宿泊系サービスが中心であった。

「居住その他」の具体については、「養護老人ホーム」「広域型特養」「老健」など、自身の事業所よりも大規模と思われる併設例がみられた。

以上から、広域型特養と異なる視点として、併設施設と地域密着型(居住ユニットのみ)の定員の割合をみたところ(図6)、最も多いのは併設施設の定員が地域密着型の1/3～2/3である施設であり、3割を占めた。つまり、居住定員が29名であると仮定した場合、併設施設の定員は10～20名となる。居住系の併設施設を持たない施設も20/74施設(27%)存在するが、地域密着型よりも定員数の多い併設施設を持つもの10/74施設(14%)存在した。

つまり、小規模で、整備のしやすさによって街なかへの建設が誘導されると見込まれた地域密着型であるが、実際は多くの施設が併設施設を持ち、敷地全体として中～大規模の施設群を形成していることが推察された。

表2に施設の複合形態の内訳を示す。地域密着型が単独で設置されているのはわずか28%であり、半数以上の施設が同一建物に他の事業所を合築していた。同一敷地内に分棟形式で併設した例は約2割であったが、これらは既存施設の隣地を利用して新たに地域密着型を新設した場合が多くみられた。

3. まとめ

以下、前報・本報から得られた知見をまとめる。

- ・定員を29名とする規定より、3ユニット構成の施設が多くを占めたが、実際は居住ユニットを2つの階に分ける計画が多くなることから、地域密着型の職員配置比率はより手厚くなり、その結果人件費が重くなることが予想された。
- ・ユニット内の空間計画においては、広域型特養に比べ中廊下型の増加、動線短縮や建設コストの削減が要因と推察される。また、共同生活室の独立性については、施設によるばらつきが顕著であり、制度化以降モデルが定まらないことのみならず、敷地が小さく効率性と居住性のバランス確保が困難であることが考えられた。
- ・ユニット外の空間計画については、広域型特養に比べ一人あたり面積はおよそ半分(11㎡)であり、居場所となる空間が提供されている施設の割合も少ない。

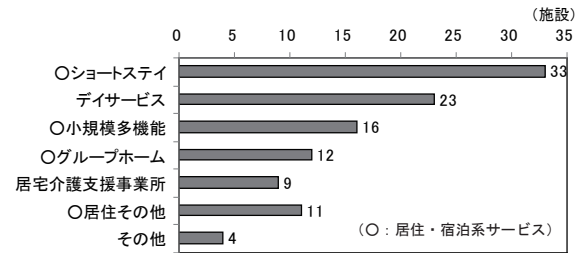


図5 敷地内における併設施設の設置状況(複数回答)

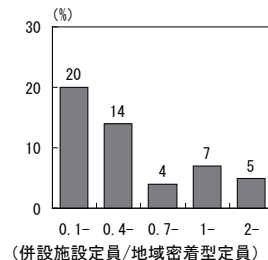


図6 併設施設定員比率の割合

複合形態	施設割合
単独型(地域密着型特養のみ)	28%(20)
一体型(同一建物内)	53%(40)
分棟型(同一敷地内)	19%(14)

表2 施設の複合形態別にみた施設割合

しかしながら、多くの施設が併設施設を持ち、運営上の連携はなされていることが推察されたが、その多くは居住系サービスであり、特養居住者のユニット外の居場所となりうる場は非常に少ない。かつ、敷地内(または隣地)に併設施設が存在することにより、建物は大規模化し、周辺の地域資源の活用等がより困難となることが予想される。

広域型・地域密着型の双方の施設を持つ運営者の方針の多くは、地域密着型に自立度の高い高齢者を入居させている。しかしながら、現状の空間計画では広域型特養以上に活動領域が狭まってしまうことも危惧される。整備や土地取得のしやすさにおいては整備する側(行政および運営者)から評価される地域密着型特養であるが、運営上の連携による効率化を図りつつ、ユニット外に居場所を作るなど居住性を高めることが重要であると考えられる。

運営実態の把握およびサービスの連携状況、また、立地・配置計画と建築計画の関わりについては、今後の課題としたい。

謝辞

本研究は、平成23～25年度文部科学省科学研究・基盤研究(C)(研究代表:毛利志保)の助成を受けて行われたものである。また、平面図の収集にあたっては、全国老人施設協会の協力を得た。記して感謝申し上げます。

註)

*1 比較対象である広域型特養については、2003年度データを用いた。

(参考文献)

- 1) 毛利 志保、井上 由起子、谷口 元: 小規模生活単位型特別養護老人ホームにおけるケア体制を踏まえた空間特性に関する研究, 日本建築学会計画系論文集(572), 41-47, 2003-10-30
- 2) 董 恩伯、毛利 志保、谷口 元、井上 由起子: 制度化以降の平面計画の動向及びケア体制との関わりについて--ユニット型特別養護老人ホームの建築計画に関する研究(その1), 日本建築学会計画系論文集 75(649), 569-577, 2010-03

* 三重大学大学院工学研究科 助教・博士(工学)
 ** 三重大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)
 *** 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程
 **** 三重大学大学院工学研究科 博士後期課程

* Assistant Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
 ** Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
 *** Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
 **** Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.